

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
【教務部】 1 教育課程・ 学習支援	a 個別最適な学びを実現するための目標設定や評価を行い、保護者と共通理解を図る。	<p>【取組指標、成果指標、満足度指標100%…達成】</p> <p>プロフィールシートを話し合いや情報共有のツールとして使用しながら、丁寧な実態把握を行った。定期的にプロフィールシートをもとに実態や支援方法について再検討し、個別の教育支援計画や個別の指導計画にいかした。</p> <p>また、個々の目標と学習指導要領の目標との関連性を確認することで、合わせた指導がどの教科のどの段階のどの部分とつながっているかを考えたり整理したりできた。</p> <p>保護者には、学級懇談等で個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用しながら、子どもに身に付けさせたい力を具体的に話し合う機会を設けたり、連絡帳を通して日々の様子や子どもの成長を伝えたりするよう努めた。</p> <p>児童生徒は日々成長しているので、その学びを見逃すことなく、学びをつなぎ合わせ、土台を強く築くことが大切である。</p>	<p>日々児童生徒の丁寧な実態把握に努め、個々の目標と学習指導要領の目標と照らし合わせていく。</p> <p>また、保護者とは懇談会や連絡帳を通して、家庭や学校での様子について情報共有を行い、切れ目なく学びが継続して行われるようにしていく。</p> <p>これらを通して、各学部で基礎となる土台について共通理解を図り、一人一人に合った支援方法を考えていく。</p>
	b 個別最適な学びの在り方や支援の方法を定期的に見直しながら授業づくりに取り組む。	<p>【取組指標96%、成果指標、満足度指標100%…達成】</p> <p>授業づくりにおいては、全教員を小中高ミックスの縦割りグループにし、全体研究会を年間3回（各学部各1回）実施した。研究会では、校内の学びを交流及び共同学習につなぐことを念頭に置きながら、生徒の学習の様子、学習内容、支援の方法などを話し合う中で、個別最適な学びの在り方について検討し、授業改善に役立てた。</p> <p>全体研究会において校内の学びを交流及び共同学習の学びへどうつなげていくとよいかを多面的に考えていったため、いろいろなアイデアが出てきた反面、焦点が合わずに意見が出しづらかったという反省があった。</p>	<p>児童生徒の今の課題、効果的な支援、必要な学びについて焦点化して考えていく中で、学びをつなぎ合わせ、学びを循環させていく。</p> <p>また、全体研究会においても、児童生徒に合わせて話し合いの視点を絞り、意見の深まりがでるようにしていく。</p>
【指導部】 2 児童生徒支援	学校行事において、児童生徒が見通しを持ち、日頃の学習の成果を発揮することができるように、発表内容や支援体制、環境を工夫する。	<p>【取組指標、成果指標は100%、満足度指標は96%…達成】</p> <p>体育発表会は、学部ごとに体育の授業を発表した。今年度は予行練習の日を除き、時間割を変更せず通常の授業時間に練習をした。練習の成果を存分に発揮して活動する児童生徒の姿が見られた。</p> <p>しみずっこのつどいでは、各学部の舞台発表、中・高等部の作業製品販売、全校児童生徒の作品展示を行った。発表では、児童生徒の特性に合わせて動画による発表が増え、日頃の活動を見てもらうねらいも相まって、舞台を使用せずフロアでの発表が多かった。練習期間および回数を減らしたため、日頃の学習のペースを保つことができた。また、土曜日に登校することでリズムを崩す児童生徒もいるため、開催日について検討していくことが必要である。</p>	<p>児童生徒の目標や成果と擦り合わせながら、丁寧に発表の形態や内容について考えていく。併せて、保護者に対して、児童生徒の実態に応じて、一人一人の頑張りを伝えられる方法としてステージ発表や動画での発表等の方法を取っていることを発信する。</p>
【教務部】 3 進路支援	a 進路支援に関するアンケートや懇談会等から児童生徒に必要な進路に関する情報や福祉サービスを把握する。	<p>【取組指標86%、成果指標93%、満足度指標86%…達成】</p> <p>事業所見学は1日だけだったが、アンケートで希望の多かった卒業生が利用する事業所、グループホームを足羽福祉会協力のもと見学することができた。</p> <p>また進路学習会は、教員が進路学習会になかなか参加することができないという意見を受け、夏季休業中に行った。足羽福祉会パステルから講師を招聘し、講義テーマ「自己決定について～小学部や中学部からも取り組める進路に向けて～」には、多くの教員が参加した。</p> <p>今後は進路学習会の内容を、いろいろなテーマで企画し、将来だけでなく、今の児童生徒や保護者に還元していかなければならないと考える。</p>	<p>事業所見学の日にちや見学場所を増やし、新しい事業所など保護者のニーズに応えていくようにする。</p> <p>また、進路学習会では、進路に関する知識がさらに深まるよう学校や家庭で取り組めるテーマで、講師を招聘していく。その際には保護者への事前アンケートを行い、保護者のニーズを把握し計画していく。</p>

	<p>b 児童生徒に必要な進路に関する情報や福祉サービスについて、関係機関等から情報収集し発信する。</p>	<p>【取組指標、成果指標93%、満足度指標96%…達成】 事業所見学では、「個別に丁寧に対応していると感じた」「グループホームを実際に見ることができてよかった」等の意見が多く、小学部や中学部の保護者に進路先のイメージや安心感をもってもらうことができたと感じた。 進路学習会については、自立支援の事業所の方から、大人になった障がい者の意見も伺うことができ、いつもとは違った視点を提供できた。さらに学習会後には小学部高学年の保護者を交えた進路説明会が設けられ、具体的にどうしていくとよいか考える場を持てた。</p>	<p>定期的に各学部で進路について保護者と話す機会を設定していく。 また、保護者会や行事等で来校の際、直接、進路指導主事と話し合いができる機会を設定し、保護者に周知していきたい。さらに来校が難しい場合には、個人的に日時を調整して相談しやすい体制を整えていく。</p>
<p>【指導部】 2 児童生徒支援</p>	<p>b 検診・検査の前にその目的や役割、手順を伝えたり、必要に応じて練習を行ったりして、児童生徒が見通しを持って検診・検査を受けることを目指す。</p>	<p>【取組指標96%、成果指標、満足度指標100%…達成】 検診1週間前～当日にかけて事前学習や事前練習を行い、当日のスケジュールや検診の内容、どのような検査器具を使うのかなどについて、関連する動画や視覚支援、練習用の検診器具などを用いて丁寧に取り組んだ。これまで検診に対して不安が強かった児童が、事前学習の中でクラスメイトの練習姿を客観的に見ることで、検診に臨む姿勢に変容が見られる場面があった。取組の結果、見通しを持ち、安心して検診を受けることができる児童生徒が多く見られた。 また、そのような学校での取組を保健だよりやHPで掲載し、積極的に情報を発信し、学校での取組の周知を図った。</p>	<p>今後も、検診前の事前学習や事前練習を継続し、児童生徒が安心して検診を受けることができるように努めていく。毎年継続することで、学校での検診はもちろん、体調不良の時など、学校外での受診への抵抗感も減らしていけるとよい。それにより、子どもを受診させる際の保護者の困り感も減らし、速やかな医療機関への受診に繋げたい。</p>
<p>【各学部】 4 交流及び共同学習</p>	<p>a 同世代の児童生徒や地域の人たちとの関わりを通して、本校児童生徒の経験を広め、地域社会の中で生活する力を養う。</p>	<p>【取組指標93%、成果指標99%、満足度指標100%…達成】 小学部では、居住地校交流は教科での交流を中心に、本校の活動を相手校で共に行うことで児童に無理のない交流も実施した。学校間交流は清水東小、清水南小4年生と各2回行い、ペア同士で相談や関わりを持って交流活動を行った。特に2回目は相手校児童の良い関わりをその場で言語化して褒めたり、本校児童の楽しい気持ちを代弁したりすることで相手校児童の関わりに対しての自信につながるよう努めた。 中学部では、一緒に作る美術作品を清水中の生徒に考えてもらい、交流中には作品作りを通してやり取りを深める様子が見られた。委員会との交流では、ペットボトルの受け渡しで対話をしている様子が見られた。美術部との交流では、一歩深められた交流になったが、本校の中でのみだったので、来年度は交流の場を広げてできるとよい。 高等部では、レクリエーション活動やニュースポーツ体験を通じて自然なやり取りが数多く見られた。本校生も笑顔になったり、自ら鯖江高校生に関わりに行ったりできた。また、直接交流が難しい生徒もオンラインで画面越しにやり取りし、関わりを幅を広げることができた。</p>	<p>小学部では、居住地校交流で双方の児童にとって活動しやすいように教科や活動などの交流の場を模索する必要がある。また実施の好事例を学年ごとに系統化すると他の児童にも参考になると考えている。学校間交流は効果的だった取組を継続する。 中学部では、外部専門家の助言を参考にして、清水中学校での交流の仕方を検討し、具体的に進めていきたい。 高等部では、出前授業時に今年度のアンケート意見を紹介し、具体的な関わりや支援方法を伝え、本校教員が関わり方のモデルを丁寧に示すようにしていきたい。</p>
	<p>b 本校の交流及び共同学習に関する情報発信や、児童生徒に対する理解啓発を進める。</p>	<p>【取組指標93%、成果指標100%、満足度指標96%…達成】 小学部では、本校の交流及び共同学習の基本理念、ねらいなどについて、相手校と事前に共通理解を図った。学校間交流の出前授業ではスライドで本校の授業風景や実際の支援具や教材を紹介した。また2回目の交流に向け、相手校児童が関わりやゲームのヒントになる本校児童の好きなことやできることの情報共有した。 中学部では、出前授業で本校生徒の学校生活を動画で伝えた。また清水中生徒が理解しやすいイラストで合理的配慮を考える場面を設けた。「障がい者芸術文化祭 2025」に初めて作品展示し、会場で直接作品の説明をして特別支援教育への理解啓発を行った。公民館祭りや地域での催しでも作品展示し、地域への理解啓発も行った。 高等部では、出前授業の中で合理的配慮の考え方を伝えた。それを踏まえて相手校生徒が第1回交流を計画し、ダンスやレクリエーションなど本校生徒が参加可能で興味を持ちやすい内容で行われた。 すべての学部で交流の取組に関するおたよりを全校の保護者あてに配付し、HPでも発信した。</p>	<p>小学部では、今後も交流前に共通理解や双方の児童の目標が達成できるアプローチを考えていく。また、交流後の振り返りを行いどのような支援が必要だったかを検証していく。発信の際には、双方児童の目標にも触れていきたい。 中学部では、今後も相手校生徒の興味・関心をつかみながら、どのような接し方がよいかなど中学生が具体的に考えられる情報も提供していきたい。 高等部では、今後も出前授業の内容を工夫し、相手校に本校の教育活動の様子や本校生徒の特性、関わり方のポイントを分かりやすく伝え、障がい理解に繋げながら、その後の交流計画・準備に活かしてもらえるようにしていきたい。</p>